

## 【再予告】 検査項目受託中止のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
 このたび、下記検査項目におきまして、検査内容変更を予定して  
 おります。11月に配布済みですが、改めてご案内いたします。  
 何卒ご了承賜りますようよろしくお願い申し上げます

敬白

記

- 中止理由：日本臨床化学会（JSCC）のALPとLDの常用基準法が国際臨床化学連合（IFCC）の基準測定操作法と同一の測定法（IFCC法）に変更になったため

- 実施日：2021年3月31日（水） ご依頼分をもって受託中止

### ■ 中止項目

項目コード	項目名	実施料	所要日数	検査方法	基準値（単位）
00172	LD（LDH）	11点	1～2	JSCC 標準化対応法	115～245 （U/L）
00163	アルカリフォスファターゼ （ALP）				115～359 （U/L）

### ■ 代替項目

項目コード	項目名	実施料	所要日数	検査方法	基準値（単位）
00172	LD（LDH）IFCC	11点	1～2 <sup>*1</sup>	IFCC 標準化対応法	124～222 （U/L）
00163	アルカリフォスファターゼ （ALP）IFCC				38～113 （U/L）

※1：上記IFCC法は、既に受託可能ですが、現在は、所要日数を2～4日とさせて頂いております。（SRL外注）

## ■変更時の注意点 (\*2)

### 1) アルカリフォスファターゼ (ALP)

- 測定値が現行の1/3 程度の数値になります。
- 変更前後の値の換算には限界があります。IFCC 法に変更することで血液型B,O 型では小腸型ALP を含む検体で低めになり、逆に妊婦では胎盤型ALPが増加することにより高めに測定されます

### 2) LD (LDH)

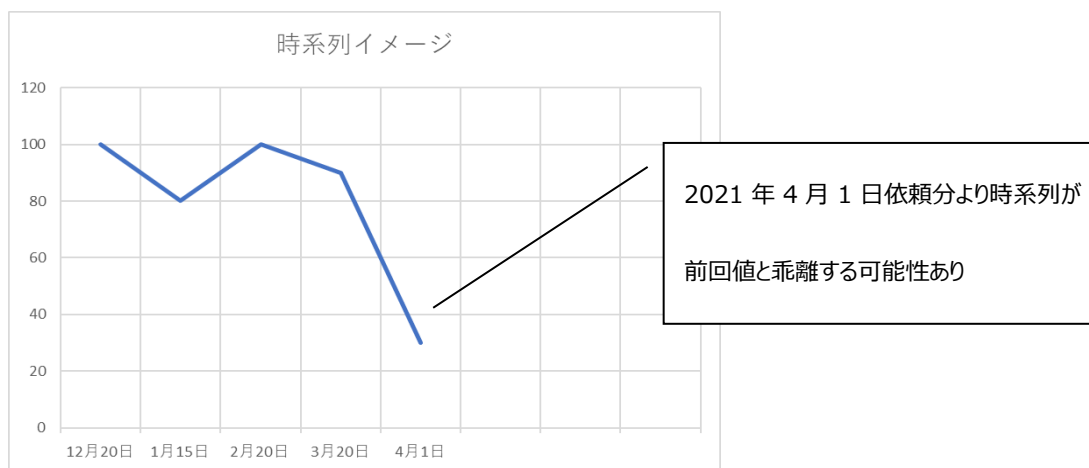
- 変更前後の測定値の差が軽微であり、健常者の測定値は許容誤差範囲内の変化であることから、現状の共用基準範囲を変更する必要はありません。
- LD5 優位検体では現行のJSCC 法に対して低めの活性になります (LD5 が50%の症例では測定値の差は20%未満)。

### 3) 測定結果について

- 新規項目となりますので、新旧法比較はご注意願います。

## ■現行法から新法になる事での変更点

1. 旧法で依頼していても、2021年4月1日受付分からは全て新法になります。  
旧法での受託はできません。
2. 新法は旧法の項目コードをそのまま使用しますので、時系列が前回値と乖離する場合があります。(変更時の注意点 1) 参照願います。)



3. 2021年4月1日受付分より検査法が変更になりますので、2021年3月31日以前の検体追加はできません。

※2：日本臨床化学会ALP・LD 測定法変更について- 医療従事者向け -ver. 1.0 (2019.11.21)